

山焼きが作る半自然草原“岩湧山キトラ草原”（河内長野市）

文・写真 藤原 宣夫(理事、大阪公立大学教授)

大阪府河内長野市の岩湧山山頂のキトラ草原では、茅場としてススキ草原の管理が続けられている。この草原は一時期、放棄されていたが、2001年より市民有志によって25年ぶりに火入れが行われるようになり、現在では、年に1回の刈り取りと火入れを行い、屋根葺き材としての茅の生産を行っている。

人為的管理によって維持される半自然草原は、屋根葺き材の他、家畜飼料の秣（まぐさ）、水田肥料の刈敷（かりしき）となる刈り草の採草地として、かつては身近な存在であり、また多様な生物の生息地ともなっていた。しかし現在では、大阪には山焼きを行う草原はここにしか残されていない。

南北100m東西800mに広がるキトラ草原は、遠目には一面ススキに覆われているように見えるが、春にはススキに先立ってワラビが全山に広がり、お盆前の、低地に比べて訪れの早い草原の晩夏には南西斜面にキキョウが咲き乱れる。そして秋になるとハバヤマボクチが背を伸ばしてススキの上に花をつけハイカーの目を楽しませてくれる。



草原の裾から入れた火が山頂へと燃え広がる
(2024.4.8)



晩夏の草原を彩るキキョウ(2024.8.2)

泉佐野丘陵緑地（泉佐野市）

文・写真 佐々木 紫朗(泉佐野丘陵緑地パーククラブ)

泉佐野丘陵緑地は大阪南部の泉州地域にある大阪府所有の1990年代に破綻した旧コスモポリス計画の土地で東・中・西区合わせて総面積74.5haあります。2007年公園として利用することを決定し、2014年に中地区約20haが第19番目の府営公園として開設されました。希少な動植物も多く中地区にはササユリ自生地やアリマグミ、ホンゴウソウ、旧棚田跡にはハンノキ群落がありミドリシジミなどのゼフィルス類、近くの天神川流域やため池周辺にはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3種類のボタルが生息しています。鳥類はフクロウの営巣やオシドリの飛来も確認されています。東西地区にも大きなため池があり東地区にはヒツジグサ群落、マルタニシなどの水生生物、西地区にアンペライなど確認されています。非常に残念なことに大阪府・泉佐野市間で2022年に東西地区は産業用地に変更し、中地区は泉佐野市移管という覚書が締結され、東地区ではため池を埋め立ててごみ処理場を建設する予定で貴重な自然がなくなることを大変危惧しています。



東地区のため池のヒツジグサ群落



水辺の広場から見るりんくう方面